

(様式2)

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590101372		
法人名	社会福祉法人苗場福祉会		
事業所名	グループホームこもれびの家		
所在地	新潟市中央区本馬越2丁目15-34		
自己評価作成日	平成30年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>平成27年5月1日に開設をし3年が経ちました。 本年度も引き続き『お客様が主役となるホーム』を目指します。 お客様の日々の健康管理を徹底するため、部署内や嘱託医との連携を密にし、体調不良者や入院者を出さない事を目標としています。 また季節の行事や外出など毎月企画を立て実施しています。 本年度は認知症カフェを毎月開催し、地域のお子様やご家族との交流を多くとっています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、新潟市の中心市街地に近い商業施設や民家が立ち並ぶ地域に所在しており、モダンな建物の外観は地域の中に違和感なく溶け込んでいる。 元々は中魚沼地域で発祥した法人施設であるが、遠方に住む家族からの要望で居住地に近い新潟市や千葉、東京などの県外にも施設を開設した経緯がある。当事業所は地域密着型複合施設の1階に小規模多機能型居宅介護事業所に併設しており、2、3階が特別養護老人ホームになっている。 開設してまだ4年目ではあるが、認知症カフェの定期的開催や体操教室、ベビーピクスなどのイベントを行うことで多くの地域の方に足を運んでもらっている。今後は、介護予防事業や出張リハビリ、認知症サポーター養成講座なども企画して地域に貢献できるよう考えている。 また、複合施設のメリットを活かして、地域の顔馴染みの利用者同士がサービス事業所間で時間や場所の制約なく自由に行き来が出来るように柔軟な対応をし、楽しいひと時を過ごせるよう配慮している。 職員は、利用者を「お客様」と呼んでおり、呼び方通りに優しい言葉掛けや柔らかい対応でもてなしをしている。ケアマネジメントについても労苦を惜まず、小さな状態変化でもその都度見直しを行ない、利用者や家族のニーズをしっかりと捉えた計画が作られており、利用者の自立支援に大きく貢献している。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様が主役となるホーム」を目指し、住み慣れた地域でお客様が健康で安心して自分を出していける場所となる為に、お客様の体調管理や職員育成に取り組んでいる。	法人の理念を礎として、各施設や各事業所ごとに目標や行動指針を立てて運営している。毎日の朝礼時に、理念と行動指針を復唱することで職員への周知と共有を図っている。ケアの方向性や職員としての心構えなどについても、事あるごとに理念と結び付けた指導が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は認知症カフェを毎月開催し地域のお子様方やそのご家族との交流を多くとっている。	地域の清掃活動に利用者と共に参加して地域の方との関係作りに努めてきた。その結果、近隣の保育園児とのつながりができ、園児たちが定期的に来訪して交流を深めている。また、毎月開催している認知症カフェや体操教室、ベビーピクスなどのイベントで事業所の認知度も高まり、多くの方の来訪につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度はキャラバンメイト養成研修にグループホームより2名参加し、認知症サポーター養成講座の実施を計画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議では以前よりご意見ご要望を遠慮なくいただける雰囲気が出来てきたと感じている。良い事ばかりでなく苦情や質問など率直なご意見をいただきながらより深いコミュニケーションがとれるよう努めている。	運営推進会議は、併設する特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。各事業所からの報告に対して、参加メンバーから忌憚のない意見が出され運営に活かされている。事業所間の交流も含めて有意義な時間となっている。	併設する施設や事業所と合同で会議を行っているが、可能な限り、それぞれの事業所の責任者、家族、利用者の参加を検討してほしい。今後は、交流のある事業所の管理者や市の担当者へも参加を働きかけて幅広い意見の聴取に努めることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に参加して頂いている。	市役所の担当者とは、管理者が事故報告や相談で訪庁したり、電話やメールでのやり取りも頻繁に行っており、顔の見える関係となっている。今後は、行政とタイアップして認知症サポーター養成講座の開催なども計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待・身体拘束防止委員会を設置しており、委員会主催で年1回の勉強会を行っている。	介護機器として移動式のセンサーを活用しているが、使用にあたっては、利用者の行動を抑制するものではないことを職員に周知している。事業所周辺は交通量が多く線路も近いが、施錠に頼らず、外に出たい利用者には可能な限り付き添い、気持ち落ち着くまで対応している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待・身体拘束防止委員会を設置しており、委員会主催で年1回の勉強会を行っている。特に「グレーゾーン」となる「不適切ケア」に関してグループワークや事例を通して自分の接遇はどうかを振り返る事が出来る。	「高齢者虐待・身体拘束防止委員会」を中心に定期的な研修会を開催して理解を深めている。年に2回、職員対象に不適切ケアについてのアンケートを実施し、集計結果について振り返りも行っている。ストレスチェックも実施し職員のメンタルヘルスにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての知識を深める機会をまだ持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書等の説明を行い、同意いただいた方に署名捺印をいただいている。説明に関する勉強会に参加し技術の向上をはかる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でお客様やご家族の意見を伺う機会を設けている。毎年行っているお客様アンケートにてご意見ご要望をいただき、書面にてお返事を報告している。	3ヶ月に1回のモニタリングの際には家族に来訪してもらい、普段の面会時と併せて利用者、家族の意見や要望を聴き取る機会としている。年に1回、法人で顧客満足度のアンケートを実施しており、結果についてのフィードバックも行なっている。アンケートの回答で居室の掃除についての意見があり、適切な対応につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議やミーティングで職員の意見や提案を発言する機会を設け職員間で積極的な意見交換を行っている。	部署会議に参加できない職員からも事前に議案を挙げてもらい検討している。職員には上半期と下半期の年2回それぞれに目標設定してもらい、それに基づいて施設の上司との個別面談をする機会を設けている。施設内での職員の異動により、業務改善が行われたケースもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回(12月)自己申告書で仕事(就業)に関する意向調査をしている。意向に沿った就業が出来るよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業方針において、年間の研修スケジュールがあり、職員のスキルに合わせた研修受講を計画的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本年度はまだ未実施だが、認知症カフェ開催時に認知症サポーター養成講座を実施したいと計画している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントや面談時にお客様の要望を確認できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にご家族様の要望もお聞きし確認している。また「傾聴」の勉強会に参加し「聴き上手介護職」を目指している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談、医師意見書などを基に、各職種で判定会を設け、お客様に合ったサービスがグループホームで提供できるかどうかを判定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様がご自分で出来る事を行っていただいている。また、少しのお手伝いや助言で出来る事の範囲が広がるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と密に連絡を取り、お互いに協力体制を作っている。	細かい内容でも連絡を密に取ることで家族との関係が深まり、家族の役割を担ってもらえるように考えている。家族だけでなく、孫やひ孫とのつながりも生まれ面会に来てくれたケースもあった。また、家族から得た情報により、趣味活動に取り組めるよう支援した利用者もいる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お客様のご友人やご親戚がいらっしゃった時には安心して面会できる場所を提供している。	併設施設内のサービス利用者とは馴染みの関係の人が多く、一緒にひと時を過ごせるよう、場所や時間の配慮を行なっている。以前、魚市場で働いていた方と一緒に海の見える場所へ出掛けた利用者が、昔を思い出して喜んでいた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士でコミュニケーションを取り難い場合には、職員が間に入りサポートしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ利用が変更になられたお客様については、利用中の情報をシートにまとめ報告を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリング時や普段の会話時、表情や言葉などからお一人お一人のご希望やご意向をくみ取れるよう気を付けている。	アンケートやモニタリング時、日常の会話の中でも利用者、家族の思いや意向を確認し、職員間で情報共有に努めている。現在、より効率的にその時々ニーズ把握ができるよう、新たなアセスメント様式に移行しているところである。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談や、入居前までにセンター方式のシートを活用して情報収集を行っている。	入居前の生活状況を把握するために、自宅や施設、利用していたサービス事業所を訪問して情報を得ている。入居後は、普段の会話の中で聞き取ったり、家族の面会時に少しづつ情報を入手して申し送りノートに記載し、職員間で情報共有をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を使用し、お客様の状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日程を決め、職員間でのモニタリングを行い、計画書を作成しその後お客様、ご家族様との担当者会議時に提案を行っている。	6ヶ月ごとの介護計画の更新に合わせてアセスメントを実施している。3ヶ月ごとのモニタリング時には家族にも来訪してもらい、利用者も同席のうえで意見や要望の聴取に努め、毎日の支援内容も確認している。介護計画には家族や専門職の役割も位置づけ、チームでの支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の入力時、出来るだけ具体的な言葉や表情を記録している。それらの情報を基に担当者会議を実施して計画書の見直しをこまめに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団レクのほかにも個別の対応で趣味や余暇活動の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方や町内会の方が積極的に施設の防災訓練や催事に参加・協力して下さっている。地域交流室での体操教室や認知症カフェでは地域の保育園児・小学生の皆さんと入居者の方達との交流がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外のかかりつけ医に関してはご家族の協力を得て受診に行かれる。その際は最近のご様子やバイタルを報告している。必要時には書面でもお渡ししている。	これまでのかかりつけ医の継続も可能だが、利便性から、ほとんどの利用者が訪問診療してくれる協力医院にかかりつけを変更している。協力医院との関係は親密であり、緊急時の指示や診察も臨機応変に対応してもらっている。処方薬についても薬局が配達してくれて、薬に関する相談にも応えてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定と健康状態の把握に努め体調不良時には速やかに看護職に相談を行っている。またその後の経過に関してもきちんと報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供を行っている。また、1週間以上の入院時は定期的に訪問し、お客様の回復状態を常に把握している。そして退院予定日や退院後の受け入れに関して病院職員に相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後は看取りケアを行えるよう、看取り経験のある職員からのヒアリングや外部研修に参加するなど準備中である。	事業所としては、本人と家族の希望があれば看取りまで対応したいと考えており、医療連携体制と看取りの指針の書式を用いて入居時等に説明している。しかし、まだまだ経験が浅いため、今後は対応体制の整備と研修等により職員のスキルアップを図っていきたいと考えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各職員が年1回、救命救急の講習を受けている。	救急救命法の講師の資格を取得した併設施設の職員が定期的に講習会を開催しており、感染症などの対応方法についてのシミュレーション訓練も行っている。また、職員が目にしやすい場所に緊急対応時のフローチャートを設置して、有事に活用できるよう周知している。	急変時の対応や、多様な事故を想定したマニュアルの整備が望まれる。そのマニュアルに基づいてシミュレーション訓練や勉強会を繰り返し行なうことにより、有事に備えた職員の実践力の向上を期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、そのうちの1回は夜間想定で行っている。地域の方にもご参加いただいている。	併設施設合同で年に2回、防災訓練を実施しており、消防署の検証も行われている。訓練時には地域代表として、自治会長や民生委員にも参加してもらっている。また、連絡網を使用した通信訓練も抜き打ちで実施し、有事に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や虐待防止の勉強会を毎年受講している。また「不適切な言葉かけや態度」のアンケートを基に自身のケアを顧みる機会を設けている。	プライバシー保護や接遇の研修会を実施して学びを深めている。具体的には、浴室で上半身が裸になったらバスタオルで覆う、トイレへの誘導時は目的を先に伝える、イベント等で顔写真を撮る際は確実に了解を得るなど、職員は人生の先輩としての利用者に敬意を持って接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いをしない、その方のペースで暮らしていただけるよう職員全員で情報共有している。又ケアプランに入れている方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まっているが、その方、その時によってご意向をお聞きしながら進めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合ったコーディネートや肌着を着ていただけるよう助言するがご本人の気持ちを優先し一緒に衣類を選んでいく。押し付けをしない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の準備・盛付・メニューについての話題・後片付けを一緒に行っている。	利用者から可能な限りできることを手伝ってもらっており、食器洗いに喜んで力を発揮している利用者もいる。焔で取れた野菜を漬物にしたり、テレビで見たチョコレートファウンテンの機械を購入してお菓子作りを試してみたりと、食が楽しくなるような取り組みを考えている。	職員不足から食事作りは行っておらず、併設施設の厨房で作られた料理を盛り付けている。職員体制が少しずつ整備されてきている現在、1日1食からでも利用者の嗜好を取り入れて利用者と共に食事作りを行うことを検討してほしい。また、職員も同じテーブルにつき、食事を共にすることで楽しいひと時となることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録している。その記録を基に、摂取方法や食形態を検討し、柔軟に対応している。水分がすすまない方には多種類・頻回・少量ずつの提供を行っている。また高栄養飲料も組み合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、磨き残しのある方には職員が仕上げ磨きを行うプランになっている。状態によっては、スポンジブラシも使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を残し、より良いタイミングで誘導が出来るよう健康チェック表を作り変えた。ご本人の負担にならない・尊厳を守ったお声かけをしている。	排泄チェック表を活用し、利用者個々の排泄パターンの把握に努め、その人のタイミングに合わせてトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	より自然排便に近いお通じを目指し、刺激性の下剤を使わない排便コントロールを実施している。担当医師と相談し内服薬の微調整を行っている。また本年も引き続き他職種連携の便秘改善対策を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定表はあるが、その方の気持ちにそった臨機応変な対応を行っている。また、好みの湯温や時間帯、細かい嗜好を把握し職員間で情報共有している。	3日に1度のペースで入浴を実施している。夏季や入浴に拒否のある方には臨機応変に清拭や足湯などで対応している。浴槽の湯を一人ひとり張り替えたり、季節ごとにより湯を用意するなど配慮して気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯よく休めるように、日中の活動量アップの体操や身体を使ったレクを工夫している。また、居室の温湿度・寝具・照明などの睡眠環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬示表ファイルを作り内服の際、確認しながら与薬している。受診時には内服の様子や状態を報告している。薬の副作用に関してインターネットで情報収集し、回覧している。嚥下状態によっては服薬ゼリーの使用や薬の形態変更を医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、工作、野菜の水やり、収穫、浅漬け作りなど日々の暮らしの中で役割意識を持って出来る仕事を支援している。又お好みのテレビ番組を録画しておき、くつろぎタイムに視聴して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	お花見ドライブ、神社参拝の外出企画を実施した。日々の買い物は出来ていないが、近所のドラッグストアへの買い物にお誘いしていく予定。	毎年、春先には桜の花見に出掛けたり、神社への参拝など計画的に外出している。日常的には、施設前の広い駐車場で日光浴を楽しんだり、施設の周りを散歩したり、近くのドラッグストアに買い物に出掛けることもある。	利用者個々の要望を聴き取り、積極的に外出支援を行なうことを望みたい。計画的な外出、日常的な外出、個別の外出など、事業所だけで行なうのではなく、家族やボランティア、併設する他事業所等の協力も得ながら支援することを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の運営上、ご利用者の金銭所持は禁止している。また、利用者のニーズはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やお友達に自由に電話できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間の環境美化、整備、不快な臭いの無いように努めている。また季節の設えはお客様と一緒に作っている。	ほぼ毎日、業者に事業所内の清掃に入ってもらい清潔を保っている。不快な臭いがしないよう定期的に消臭剤で消臭しており、洗面台の汚れにも配慮し、清潔で居心地の良い環境整備を行なっている。また、利用者の動線に合わせてソファやテーブルを最適な位置に配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファが置いてありそこでくつろいだりテレビを観たりされる。又テーブル席でおしゃべりされる時は必要に応じて席の移動や追加を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具を持参されている方もいる。面会時に撮ったご家族との写真を印刷し室内に飾っている。入居時には、以前の居住空間に出来るだけ近くなるよう情報収集しレイアウトを整えた。	担当職員が本人や家族と相談しながら自宅の環境に近くなるよう環境を整えている。居室には季節の飾り物や植物を置いたり、居室内で亀を飼っている利用者もおり、それぞれの居心地の良い居室が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「トイレ」表示をお客様の目線の高さに変更しわかりやすく「便所」表記とした。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				